

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード

(心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

すべてのものはうつろいゆく、怠らず精進すべし(仏陀) 横田南嶺(臨済宗円覚寺派管長)

1. 人生は苦である。無常の風はどうしようもない。では、その中でどう生きるのか。まずは正しい道理を知ることを仏陀は説かれた。まさにこの世は無常であり、いつ何が起きるか分からないものだとして正しく知ることである。お互いに「これが自分だ」「これが自分のものだ」といって執着しているが、無常の風に吹かれては、これが自分だと言えるようなものはどこにもない。心を静めて、冷静にこの真理を見ることが第一である。
2. 仏陀はガンジスの流れを見て修行僧たちに説かれた。「ガンジスの流れには、そこかしこに渦巻がおこっている。しかし、渦巻そのものというものはどこにもない。渦巻の本質というものもない。それはたえず変化する水の一時の姿にしかすぎない。そして、人間の存在もまたおなじである」、というのだ。そんな中で一日一日を精進努力することが仏陀の教えの眼目である。快楽に溺れることは何もならない。過去の思い出にふけることも問題の解決につながらない。感覚を制御して、よく気がつき目覚めて生きるのである。
3. 仏陀は臨終に際して、「水の常によく流れて石に穴を穿つが如し。故に汝まさに勤めて精進すべし」と説かれた。また「すべてのものはうつろいゆく、怠らず精進すべし」とも言い残された。苦しみに堪えて、むしろその苦しみをみず見据えて、前を向いて努力してゆくことを説かれたのだ。

(参考:「致知」2021年5月号)

経営者のための危機管理

危ういDXに対応できない企業の存続

1. デジタルトランスフォーメーション(DX)という言葉が、最近ビジネス界に浸透している。本来は「デジタルの進展で社会全体が良い方向へ変わる」という漠然とした意味だが、わが国ではより危機感を持った概念として捉えられている。デジタルの力がビジネスの在り方を根底から変えてしまうからだ。
2. フィルムを使ったアナログカメラが、あっという間に姿を消したように、デジタルを前提に社会の仕組みが変わると、従来のビジネスが突然なくなってしまう可能性もある。フィルムにこだわる企業と、それから脱却した企業で明暗が分かれたように、DXに対応できない企業はその存続さえ危うくなる。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2021年3月27日)

ワンポイント経営アドバイス

「情より理」で経済合理性に基づいて経営を行う

川村隆(日立製作所名誉会長)

1. 日立が2009年3月期に7873億円の最終赤字を出した時は、ものすごくしんどかった。当時は「遠ざける事業」と「近づける事業」と表現を変えたりしていましたが、要するに、この事業はもうダメだなと決めたら畳むということをやりました。国内の他のメーカーも見ていて、切るべきものを切れない企業はダメになるというのは分かっていました。
2. 「情より理」で、合理性に基づいた判断によって人や物や金を移し替えるというのが経営者の基本。その仕事をさぼってきたことが停滞につながったと思います。やはり日本の企業は、この先世界的な競争力を持ってなくなる事業を落として、そこにある人・物・金・情報などの資源を、これから伸びていくところに動かすという基本行動をちゃんとやることです。

(参考:「日経ビジネス」2021年3月15日号)

古典に学ぶ

個人の富はすなわち国家の富

(解説) 要するに富むものがあるから貧者が出るというような論旨の下に、世人こぞって富者を排するならば、いかにして富国強兵の実を挙ぐる事が出来ようぞ。個人の富はすなわち国家の富である。個人が富まんとして欲するにあらずして、いかでか国家の富を得べき。国家を富まし自己も榮達せんと欲すればこそ、人々が、日夜勉勵するのである。

(参考: 洪沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)